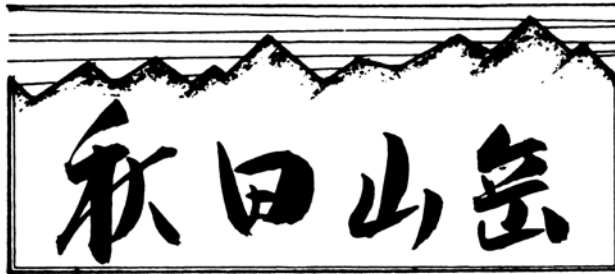


2018



平成 30 年 2 月 発行

No. 106

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市 泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018 (823) 2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

秋の里山山行

紅葉の甚吉森へ 堀井 弘

秋の山行は、秋田県北部に位置する甚吉森。

四国百名山の甚吉森は「壇ノ浦の合戦から逃れた平教経がこんもりと木が茂った丸い山を見つけ、あの森は甚だ吉（はなはだきち）である。ここを居住地にしよう」と言ったことが甚吉森の由来とされているとか。

ここ大館市の甚吉森もこんもりと丸く、木が生い茂っている。

十月二十二日（日）、雨の降る中、「五城目道の駅悠紀の里」に集合した参加者十三名は、今日の山行について、実施か、中止か協議し、せっかく集まったのだからと実施することに決定した。歩仁内会員は所用によりここから帰宅。

今にも大雨が降りそうな空模様なので少し気の重さもあるが、まずは大館市・日影温泉の近くにある登山口へ四台の車に分乗し出発。

紅葉真っ盛りの国道二八五号線、七号線を走り、鷹巣から大館北まで、自動車専用道路も開通して便利になり、九時五十分には改装された日影温泉すぐ近くの登山口に着いた。

ここは甚吉森へのスタート地点で標高は二五〇m位か。ここで、鈴木、吉川の二名は留守部隊を希望。十一名は支部長から恒例のパナナをいただき、十時二十分、小雨の中を出発。

小橋を渡ると右手に長走尋常小学校秋津分校跡地の標柱があり、林業の繁栄していた往時を想う。ここから杉林の中の苔生した石段をゆつくり登ると、

矢立ハイツからの遊歩道との分岐に出る。緩いスギ林の斜面を尾根に向かい進む。ホオノキ、クロモジ、オオカメ

ノキの黄葉が見事である。十一時に送電線のある小広場に到着して小休止。赤、緑、黄色の混在する、見事な紅葉を鑑賞する。

雨もやみ、青森県津軽湯の沢方面の山々が樹間から眺められる。痩せ尾根が続く、左右のカエデ類の紅葉が美しい。尾根が過ぎるとロープの張られた急登となり、雨のせいもあり滑るので要注意。柳田さんご夫婦は無理をせず、この急登山前でゆつくりと下山することとなった。

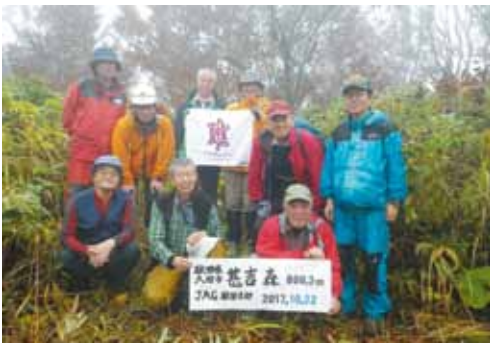
四カ所の急坂を過ぎると笹藪、倒木

があり、登りの邪魔をする。藪のコースを越えるとブナ林となり、上部も明るくなってくる。先着グループの声聞こえてくる。十二時四十分、二等三角点のある山頂到着。

ここは笹を払い広場となっており、昼食の場所としては適地であった。雨もやみ、記念写真を撮り十三時十分下山開始する。急坂の下りは大変であったが、登りよりは楽。十五時三十分無事に下山解散となった。

紅葉真っ盛りの甚吉森に感動。標高の割には中盤以降の登りがきつかった。歩行往復三時間三〇分。山行担当の鎌田倫夫委員に感謝。

参加者 今野昌雄 奥村清明
鈴木裕子 鎌田倫夫 堀井弘
柳田勇悦 石川祐子 佐々木長秀
澤田石一夫 歩仁内昌樹
会員外 吉川昭子 柳田レイ子
鈴木茂男 永田一秀



甚吉森山頂で記念撮影



改装された日影温泉の前で全員集合

太平山歩道整備に参加して 石川 祐子

十一月五日(日)、夜中に雨の音で目を覚ました。あく今年も雨がな、やっぱり防水の効いた雨具に取り換えよう。と思いがらまた寝てしまった。二手ノ又登山口に集合した七人の侍(K氏いわく)は、「いつもの事」とばかりに淡々と準備を始めていた。八時出発。



トレイルランニング後の整備された登山道。まずは前岳まで進む。

二年前に切り開いた鳥海山が望める展望地は黄やオレンジの葉がまだ残っていて、青空の下ではさぞや綺麗だったろう。他の登山者も気づいてくれていればいいが。前岳山頂のベンチが気になる。さっそく腰を下ろしてみたが、気づいた會員が以前に足場を固めてくれたので、今のところは座っても問題ないのがわかった。標識の文字が薄くなっている。今後もメンテナンスは必要だろうと思う。

中岳へと向かいながら、三角井戸へ続く歩道の刈払いが始まる。草刈り機の二人は石による飛び跳ねに気遣いながら、出来るだけ笹を根元に近い所で刈り取っていく努力をしているのがわかる。私たちは歩道に笹が残らないよう周

りに払っていく。三角井戸から中岳山頂に続く歩道の両脇の笹藪は、背丈を越えるものもあり、刈り払った竹を歩道脇に寄せるのにも一苦労。中岳に十二時二十分到着。二年前に綺麗に刈り払ったのに、神社回りには雑草が、展望台には雑木が生い茂っていた。

話も弾む昼食。カプセルを故人となつた杉山さんや深井さんも一緒に埋めたなり、奥岳集中登山も面白かつた等、そこに記憶が残っている。下山予定の十三時まで、時間を惜しむように神社や展望台の周りをせつせと払う働き者のみんなであった。「きれいになってよかった」「登山道が広々として歩きやすい」「私でもまだ役に立つた」それぞれ口から出してくる。二年後は俺、〇〇歳になつてるぞ!」と言う笑顔が少し真顔になつた。

心配された雨も降らず、刈り払いを終え駐車地点に十五時二十分着。解散。中岳山頂から先は敷化が進んでい。こうなつては、一つの山岳会の中では難しいだろうな。この登山道、奥岳までは長いけど、何度も歩いたなあ。良かったんだけどな。けど、もう私の体力じゃ往復できないかもしれないし。気持ちは複雑だ。

参加者 今野昌雄 鈴木裕子

鎌田倫夫 佐藤 博 石川祐子

柴田 勸 安藤金栄

働き者の皆さん



綺麗に刈り払った神社の前で

秋田県自然保護課発行
「山の日情報十六号」から

今年も九月三〇日に森吉山野生鳥獣センター付近にて、ブナやトチノキなどの苗木百本を植樹しましたが、これには登山道等再整備事業(ボランティア事業)の後援団体である日本山岳会秋田支部の今野昌雄支部長も参加をしてくれました。

ブナ林の復元には百年という長い年月がかかります。目先のことではない。百のブナ林を目指した取り組みをしていくには、次世代の者が「想い」を引き継いでいかなければならず、十年以上も植樹を続ける活動には感服させられます。

全国支部懇談会

第三十三回全国支部懇談会は、十月十三日(土)、茨城支部主管で、つくば市内「つくばランドホテル」で開催。全国各支部から一三七名参加。

講演会では郷土史家である井坂敦美氏(元筑波町長)が、筑波山を語る古代の山の信仰の歴史についての講話をされ、懇親会では「がまの油売り口上」が演じられ楽しいひと時を過ごした。翌、十四日は、筑波山トレッキングや御幸ヶ原コース等を楽しんだ。また、国土地理院の見学等もあった。(会報「山」No.八七〇号参照)

秋田支部からは、今野支部長参加。

— 支部担当者会議 —

九月二十三日(土)から二十四日(日)、東京四ツ谷主婦会館プラザFで開催。

二十三日は、十三時開会。小林会長の挨拶では、会運営は会費とボランティアで成り立っている、二十九年では黒字化を視野に、永年会員から寄せられた寄付金は大きい。百二十周年に向けての事業委員会を新設し、会長が主導するとの方針を話された。

記念事業委員会からは「日本山岳会百二十周年を、みんなで盛り上げましょう!」をモットーに、「温故知新」の登山資産の顕在化」を基本理念とする。百二十年史の編纂、支部記念事業、新々日本山岳誌の編纂、山のグレーディングなどについて準備作業を開始する等であった。遭難対策委員会からは、会員の平均年齢は六十九才、富士山で、幌尻岳で遭難事故が起きている。事故があった場合、個人山行でも「日本山岳会が事故、遭難」と報道される。この点をあらためて意識してほしいとのことであった。すべての山行について届け出の義務を検討中。二日目は、各支部のアンケートの回答の意見交換であった。支部会員 準会員の増加対策と目標では、秋田支部作成の「入会のご案内」を各支部で高く評価していただいた。また、遭難対策として、登山届の徹底、事故防止、安全対策の講習を行っているか等であった。

(会報「山」No.八六九号参照)
出席者 今野昌雄 鈴木裕子

年次晩餐会・懇親山行
鈴木裕子

◎年次晩餐会

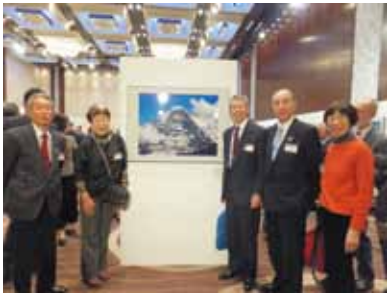
十二月二日(土)午後六時から東京都新宿区・京王プラザビル五階のコンコード・ボールルームで開催。

山岳写真展、図書交換会や講演会は午後一時から行われていた。

会長挨拶、永年会員、新入会員等の紹介の後、恒例の鏡割り。

皇太子殿下がお見えにならないのでも残念であった。即位されるとご出席は難しくなるのではないかと心配の声が、参加者から聞こえていた。他支部の会員の方々と久しぶりの交流を楽しみ、来年また会いましょうと約束し、会は九時に閉会した。

午前中、同ホテル四十二階高尾の間で「支部代表者会議」開催。
今野支部長出席。



皇太子殿下ご出展の写真の前で

◎懇親山行

翌三日(日)、富士・御坂山系の足和田山から三湖台を経て鳴沢氷穴まで歩く。

新宿・工学院大学の前からバスに乗車。富士河口湖町・一本木登山口から登る。登山口周辺は鹿やイノシシ防禦の3m以上はある柵が設けられていて、カギをあけての入山となる。

やや急な登りが続くが、先頭の山行委員の配慮でゆっくりと進む。

お天気も良く、三ツ峠や御正体山等、登った山々も確認できる。晴れてはいるが風があり、寒い。河口湖が眼下に見えてきて、展望台があり、富士山が堂々と美しい。「山梨百名山」の足和田山(二三五四m)着。(約一時間三〇分)ここで昼食。

ここから緩やかな東海自然歩道を三湖台へと向かう。富士山を近くに、樹間の眼下に西湖を見ながらゆっくりと歩き、三湖台に着く。

ここは大広場で展望台があり、雪を被った北岳、間ノ岳、農鳥岳、赤石岳、荒川岳等の南アルプスの山々が遠くに見える。ここで記念写真。

まだ紅葉の残る樹林帯を進み、紅葉台を過ぎて、もうすぐ終点の鳴沢氷穴にあと僅かの林間の歩道に、大きな看板があり、「借金返済のご相談云々」が書かれてあった。山中でこのような看板は初めて見た。なぜこの山中にと疑問をもったが、ここは青木ヶ原樹海の入口、あつても不思議ではないなあと思なおした。

鳴沢氷穴は、富士山麓の溶岩洞窟の一つで、昔、春先に池の水を切り出し

て夏まで保存しておき、冷蔵庫がなかった時代に利用されたとのこと。四角に切り、積み上げた氷があった。ここは、国の天然記念物に指定されている、地質学上貴重な存在であるとの説明。洞窟の中は低く、万年氷の上を、腰を低くして歩き、疲れてしまつた。



三湖台から富士山を望む

ここからバスに乗って新宿に向かうが、秋田支部三名は河口湖駅近くで下車する。せっかくなので、翌四日(月)、道志山塊の今倉山から二十六夜山の縦走を楽しんだ。

晩餐会出席者 佐々木民秀 今野昌雄

佐藤和志 福田光子
鈴木裕子 大船武彦

懇親山行参加者 佐々木民秀

今野昌雄 鈴木裕子

石川祐子会員

「東北百名山」登頂終える

石川祐子会員は、九月十六日、宮城県金の華山を最後に、東北写真家集団編の「東北百名山」新旧合わせて百十六山の登頂を終えました。おめでとうございます。

※会員の方で、目標の山々の登頂を終えた方は事務局までお知らせ下さい。会員に周知したいと思います。

新年会を開催

一月十三日(土)午後五時から秋田市山王「夢幻海」で開催。

今野支部長から日頃の支部運営に対する感謝と、全国で山の遭難が多く発生していることから十分注意の上、山を楽しんで下さいとの挨拶があり、続いて高橋監事の乾杯で会は始まりました。久しぶりだなあと新年のあいさつを交わり、会話が弾み、昨年に引き続きの新年会には、始めて参加した方もおり、会員同士の親睦、交流を楽しんだ。体調を崩していた佐藤英實会員の復活宣言のお開きの挨拶まで、楽しい一時を過ごした。

出席者 佐々木民秀 佐藤和志

- 今野昌雄 柳田勇悦 若月寿
- 鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫
- 佐藤博 高橋忠雄 石川祐子
- 三浦真六 安藤金栄 熊谷光子
- 後藤浩二 佐藤英實

支部会員の動向

退会 齋藤恵子(平成二十九年十二月)
小笠原義雄(平成三十年二月)

会務報告

◎第一回役員会

十月十六日(月) 午後一時から泉コミセン会議室で開催。

・支部担当者会議報告

十二月晚餐会時に開催されていた支部長会議は、今年度から支部連絡会議とし、各支部は自由参加。旅費は交付しない。しかし、支部への諸連絡はあるので、出席する支部長の旅費は個人負担となる。六月に開催される本会総会も同様。また、日本山岳会の財政は、永年会員からの寄付等により、黒字となる見込み。

また、会員、準会員の増については特に要請があった等を報告。

・役員改選についての協議。

・六十周年記念事業については、四十年や五十年、他支部の行事を参考に検討する。

・長岩会員から横断幕寄贈申し入れがあった。(金額で十万円)

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘

- 石川祐子 鎌田倫夫 三浦真六
- 安藤金栄 佐々木長秀 柴田勸

◎第二回役員会

十二月八日(金) 午後一時から泉コミセン会議室で開催。

・役員改選について

三十年度は役員改選年である。年度当初会員に自薦、他薦のお願いの通知をしたが、届け出がなく、役員会で互選し、総会の承認を得ることになった。新たに委員をお願いする会員を決めたが、支部長、副支部長の役員互選については次回へ持ち越しとなった。

・支部年間行事予定について

・山のグレーディングについて。

- 出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘
石川祐子 鎌田倫夫 三浦真六
安藤金栄 佐々木長秀 高橋忠雄
柴田勸

◎第三回役員会

一月十三日(土) 午後一時三十分から秋田市中心市民サービスセンター会議室で開催。

・県内の山岳調査について

事業内容の説明。新年度事業として行うかは次回役員会で検討する。

・役員改選について

諸々の事情を勘案し、今野昌雄支部長、高橋忠雄監事の退任を了承。

様々な意見交換があり、支部長に鈴木裕子、副支部長に堀井弘、佐々木長秀、事務局長兼会計担当石川祐子、副事務局長に鎌田倫夫、監事に柴田勸、大橋忠雄を選任した。

今野昌雄支部長を顧問に推薦。

委員についてはまだ確認をしていない会員もあり、次回役員会で確認する。

・三十年度総会に提出する案件について。事業報告、決算報告、新年度事業、予算等を確認。

・本会に届け出る登山届けについて

鎌田委員が担当する。
・長岩名誉顧問から横断幕作製費として十万円を頂いたことを報告。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘

- 石川祐子 鎌田倫夫 佐藤博
- 三浦真六 安藤金栄 佐々木長秀
- 高橋忠雄 柴田勸 佐藤和志
- 後藤浩二 歩仁内昌樹

◎第四回役員会

二月七日(水) 午後一時から秋田市中心市民サービスセンター会議室で開催。

・新年度役員の確認。

佐々木長秀が諸般の事情により副支部長を辞退。

委員は、佐藤和志、佐藤博、川口廣志、三浦真六、安藤金栄、熊谷光子、後藤浩二、藤田正義、歩仁内昌樹を選任

・六十周年記念事業について

県内の山岳調査、及び六十座ラリーを前倒しして三十年度から実施する。

・登山届け用紙を検討。

出席者 今野昌雄 鈴木裕子 堀井弘

- 石川祐子 鎌田倫夫 佐藤博
- 安藤金栄 藤田正義 後藤浩二
- 歩仁内昌樹

元会員 佐藤栄治氏(秋田山岳会元会長 山友会元会長) は、急病のため、十二月十三日逝去されました。

(享年八十一才)

心からご冥福をお祈りいたします。